


1 学校教育目標	
<p>教育目標…… 1 広い教養と専門的な知識技術を身に付け、望ましい勤労観・職業観を養う。 2 感謝の気持ちを持ち、地域や社会に貢献する心と態度を養う。 3 自ら思考し、判断し、主体的に責任ある行動のとれる能力、態度を養う。 4 強い使命感と倫理観を持ち、創造性豊かで挑戦し続ける産業人の育成を図る。</p> <p>育てたい力と心…… 社会人として自発的・自律的に行動できる。 1 基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識技術 2 高い規範意識と正しい判断力 3 感謝の気持ちとボランティア精神 4 現状に満足せず主体的に学び続ける姿勢</p>	 <p>校訓 勤労愛好 報恩感謝 自発自律 ひとつづくり&ものづくり 100年へ向けて</p>
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>○基礎学力テストについては、実施前後での指導内容・方法を検討し、就職試験に対応した効果的な基礎学力の定着を目指す。 ○授業アンケートについては、生徒のニーズを把握し、より学習意欲が向上する授業となるよう授業の工夫・改善に取り組む。 ○Webページについては、コンテンツの掲載方法を検討し、より新鮮な情報を早く提供できるように改善を進める。 ○通学路の危険箇所の確認や交通ルールを守る規範意識の向上を図るとともに、自転車乗車中のルール順守とマナーの指導等を通して、交通事故対策に努める。 ○生徒の規範意識をさらに高めるよう、全教員が共通理解のもと、引き続き粘り強く取り組む。 ○いじめ防止については「山口県立小野田工業高等学校いじめ防止基本方針」に基づいて、引き続き全教員が未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 ○生徒の健康意識は高まりつつあるが、さらに高い目標を設定し、自己管理能力を向上させる。特に歯の健康の重要性を理解させ、治療率の向上を目指す。 ○PTAや地域との連携を推進し、生徒の進路意識・学習意欲の向上により、一次募集での合格につながるよう、きめ細かに個別指導を徹底する。指導内容を充実させ、今年度も進路決定率100%を目指す。 ○資格試験については、学科間の連携を取り、ジュニアマイスターポイント1600点以上を目指す。指導については、担当者と担任が連携を取りながら、補習等を行い合格率の向上を目指す。 ○体験入学については、本校への志願者を増やすために、体験入学の充実や出前授業、外部と連携した学校のPR活動に積極的に取り組む。 ○引き続き、委員会や職員会議、校務分掌活動の円滑な運営や業務時間の適正化に取り組む。</p>	
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題及びチャレンジ目標	
<p>1 ICT機器の効果的利用等による、わかりやすい授業の実践 2 規律ある安心・安全な学校づくりとそれを支える組織的な危機管理 3 キャリア教育の充実と丁寧な進路指導 4 学校行事や様々な媒体を利用した本校の魅力の積極的発信</p> <p>(1)【学習指導】 ・基礎学力や技術の定着 ・互見授業、研究授業、授業評価を活用した授業研究とICT機器の積極的活用による授業改善 ・主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業実践</p> <p>(2)【生徒指導等】 ・基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 ・命の大切さや人権を尊重する心や態度の育成 ・交通法規の遵守とマナーの向上 ・部活動や特別活動の活性化</p> <p>(3)【進路指導】 ・資格取得の促進 ・早い時期からの進路意識の醸成 ・就職サポーター等と連携した積極的な情報収集 ・生徒・保護者への確実な情報提供 ・最後まで粘り強いサポートの実践</p> <p>(4)【校務分掌・その他】 ・教員減に対応した勤務体制の見直し ・迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化 ・コミュニティスクール等地域、企業、異校種などとの双方向の連携強化 ・本校の特徴的な活動やものづくりの魅力の積極的情報発信</p>	

4 自己評価				5 学校運営協議会委員評価			
重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価	
教務	基礎学力の定着向上及び学習意欲の育成と学校・家庭・地域との連携強化	・「基礎学力テスト(漢字・数学)」の計画的な実施と内容の充実及び基礎学力の定着を図る。	4: 計画どおり3回実施し、全体を通じた成績優秀者(平均80点以上)の割合が50%以上であった。(欠席者は除く) 3: 計画どおり3回実施し、全体を通じた成績優秀者(平均80点以上)の割合が40%以上50%未満であった。(欠席者は除く) 2: 計画どおり3回実施し、全体を通じた成績優秀者(平均80点以上)の割合が30%以上40%未満であった。(欠席者は除く) 1: 計画どおり3回実施し、全体を通じた成績優秀者(平均80点以上)の割合が30%未満であった。(欠席者は除く)	4	予定通り、年間3回実施した。成績優秀者(平均80点以上)は、1年生が34人(全体88人)38.6%、2年生が45人(全体85人)53.0%、3年生が66人(全体105人)62.9%。全校では145人(全体278人)52.2%であった。 学年が上がるにつれ、成績優秀者の割合も高くなっており、基礎学力が着実に定着していることがわかる。 一方で、平均50点以下の生徒は、全校で漢字7人、数学34人であった。今後も指導を続けていく必要がある。	・基礎学力の優秀者が50%で「4」という基準が妥当か検討が必要である。 ・専門教科の中でも基礎学力の向上に重点を置いた指導が必要である。 ・タブレットの活用により図書館の利用が減っているのではないかと、読解力、表現力を向上させるために本と触れることは大切である。読書習慣を身に付ける指導を期待する。	A
		・授業評価アンケートの内容を精選し、年1回の実施とその結果から生徒の実態を把握し、生徒に即した授業を行うとともに、授業改善に繋げる。	4: 年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行っているが95%以上である。 3: 年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行っているが85%以上である。 2: 年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行っているが75%以上である。 1: 年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行っているが75%未満である。	4	普通科目文系、普通科目理系、普通科目実技、各工業科の座学、各工業科の実習の合計9グループでアンケート結果を集計した。 まず、8グループの95%以上で、生徒は授業に興味・関心を持ち、積極的に参加していると回答している。 次に、6グループの98%以上、3グループの95%以上が、教員の授業展開について、概ね良いと回答している。 また、各工業科の実技グループでは、全ての質問項目に対して、他のグループよりも高い評価を得ている。今後も工業の知識・技術を身に付ける指導を行う。		
		・授業等で学校図書館の積極的な活用を図り、読書活動の推進につなげる。	4: 年間平均で、週4コマ以上の利用があった。 3: 年間平均で、週3コマ以上の利用があった。 2: 年間平均で、週2コマ以上の利用があった。 1: 年間平均で、週1コマ程度の利用にとどまった。	2	部活動や進路の勉強会で放課後の図書館の活用が増加した。今後は検定試験のための環境整備を検討する。授業では、話し合いや班活動での活用が見られた。調べ学習のために工業系の本を重視して購入したが、利用頻度に伸びは見られず昨年と同程度であった。 図書委員の活動として、今年度も山陽小野田市立図書館で「小工生おすめの本」を展示し、山陽小野田市広報に本を紹介した。一方で他校や異校種間の交流はなかった。今後読書活動を進めるためにも交流を深める活動を行ってきたい。		
		・Webページによる積極的な情報発信を推進し、多くの人に本校の情報を提供する。	4: 昨年度より、閲覧件数が10%以上増加した。 3: 昨年度より、閲覧件数が5%以上増加した。 2: 昨年度と同程度の閲覧件数にとどまった。 1: 昨年度より、閲覧件数が減少した。	2	本年度Webページ更新を行ったため閲覧件数を正しく集計できていない。ただし、学校アンケートでは昨年度よりもホームページの充実化や更新頻度の増加を望む声が多く見られ、本校Webページへの興味関心が高まっていると言える。今後、生徒によるWebページを利用した情報発信を取り入れるなど、よりよいページづくりを進めていきたい。		
生徒	自分の健康と命の大切さを認識させるとともに、社会の一員であるという規範意識を醸成させる。また、問題行動の早期発見・未然防止に取り組む。	・交通安全教室や学年別および全体指導で交通安全意識の向上を図り、危険予知に対する態度を高め自他の命を守る意識を育む。また、定期的な立哨指導や生徒会の啓発活動を行いながら交通事故防止に努める。	4: 年間を通して事故件数が5件未満であった。(全校生徒の1.8%) 3: 年間を通して事故件数が10件以内であった。(全校生徒の3.6%) 2: 年間を通して事故件数が15件以内であった。(全校生徒の5.4%) 1: 年間を通して事故件数が20件以上であった。(全校生徒の7%)	3	事故件数は6件。重大事故はなかったが、対車との出会い頭での接触事故が多かった。 登校中の並進はほとんど見られない。交通ルールを守るだけでなく安全意識を高くもつことが事故予防につながると思われる。 今後は、危険認知に関する指導を徹底させ「自他の命を守る」姿勢を継続させたい。	・登校時だけでなく下校時の交通マナー遵守に注意が必要である。 ・時代に即したルール変更も必要。生徒自身が参加したルール作りを検討してはどうか。社会性を身に付けるための、粘り強い指導も期待する。	A
		・頭髪服装検査を通して規範意識の醸成を図り、礼儀やマナーの指導を行う。	4: 初回の頭髪服装検査の合格率が90%以上であった。 3: 初回の頭髪服装検査の合格率が80%以上であった。 2: 初回の頭髪服装検査の合格率が70%以上であった。 1: 初回の頭髪服装検査の合格率が70%未満であった。	4	生徒の自覚が身に付いており、継続的な指導を必要とする生徒はいない。 本校の生徒指導について、保護者アンケートでは、75%の方から現状のままで良いと回答をいただいている一方で、23%の方から厳しすぎるというご意見もいただいている。		

生徒		<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒に対しアンケート調査を実施し、生徒の日常把握に努めると共にいじめの認知件数を増やし早期発見、早期対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 年3回の実施ができ、いじめの認知件数の100%を対策(指導)として役立てた。 3: 年3回の実施ができ、いじめの認知件数の80%を対策(指導)として役立てた。 2: 年3回の実施をしたが、いじめの認知件数の60%しか対策(指導)に役立てられなかった。 1: 年3回の実施だけにとどまった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、いじめとして認知したものは2件あった。そのすべてに対応を施しており、現在確認できる事象はない。 今年度からFit(生活アンケート)を再開し、学校生活に不安を感じている生徒の早期発見に努めている。スクールカウンセラーと連携し、カウンセリングを行うなど、迅速な対応を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科治療は家庭の協力が不可欠であるが、治療の重要性を伝え続ける必要がある。 ・いじめの早期発見に努め、その改善が最も重要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の事後指導を通して、健康に対する意識と自己管理の向上を図る。特に、歯科の治療率の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 事後指導を実施し治療率が40%以上であった。 3: 事後指導を実施し治療率が30%以上40%未満であった。 2: 事後指導を実施し治療率が20%以上30%未満であった。 1: 事後指導を実施したが治療率が20%未満であった。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 27.5%の完了率だった。 昨年を大幅に下回る治療率であった。全体指導などでの啓発不足が認められる。特に3年生は社会人になる前に治療が完治できるよう促したい。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭、地域間の緊密な連携をベースにしたキャリア教育の活性化と個々の進路希望の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査や個人面談等の充実により、学校全体で生徒の進路希望を支援し、その実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 生徒の95%以上が一次募集試験で進路を決定した。 3: 生徒の90%以上が一次募集試験で進路を決定した。 2: 生徒の85%以上が一次募集試験で進路を決定した。 1: 生徒の85%未満しか一次募集試験で進路を決定できなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 2年次より、企業説明会及び進路指導部による面談や個人指導を行い、進路希望調査をもとに受験先を決定した。 8月以降、就職サポーター・教員による面接練習など受験指導を繰り返し行った結果、一次募集試験の合格率は96%(昨年度93%)だった。 不合格者は二次募集求人で内定し、結果的に1月中旬に全員進路決定をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山口東京理科大学への5名合格は、推薦といえども簡単ではない。学校の努力が成果につながっている。 ・就職希望生徒への指導に努力していることが伺える。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望に資する企業訪問の実施と就職サポーターとの綿密な情報交換を推進することで、学校のニーズに即した求人数の確保と求人内容の充実をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 360人以上の求人を確保することができた。 3: 270人以上の求人を確保することができた。 2: 180人以上の求人を確保することができた。 1: 180人未満の求人しか確保することができなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響も残る中ではあるが、5~6月にかけて県内企業訪問や就職促進協議会を通して企業と面談を行った。校長をはじめ、教頭・各工業科長・3学年担任・進路指導部及び就職サポーターの協力を得て、卒業生の定着指導と求人依頼を行った。 結果的に7月時点で1168名(前年605名)の求人を確保することができた。昨年度を大幅に上回る恵まれた状況ではあるが、世界情勢が不安定なため、来年度も気を引き締めて求人確保の働き掛けを行いたい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・「進路指導だより」や「進路のしおり」の発行、ホームページの更新など、生徒・保護者への積極的かつ確実な情報提供をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が90%以上であった。 3: アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が80%以上であった。 2: アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が70%以上であった。 1: アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が70%未満であった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響によりPTA行事の多くが中止になったが、「進路指導だより」を月に1回発行するなどの取組を行い、結果として生徒・保護者を合計して肯定的評価が92.6%となった。来年度はホームページの更新にも力を入れるとともに、PTA関連行事の再開も図りたい。 	
工業	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得に向けた指導の充実 地域と連携したもののづくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目において資格取得に向けて積極的に働き掛け、ジュニアマイスターポイント年間1600点を目標とする。(令和3年度実績1524点) 	<ul style="list-style-type: none"> 4: ジュニアマイスターポイント1600点を達成した。 3: ジュニアマイスターポイント1400点以上であった。 2: ジュニアマイスターポイント1200点以上であった。 1: ジュニアマイスターポイント1200点未満であった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ジュニアマイスターポイントの本年度のみの累計は3月13日現在で1,739点取得。合格発表がまだの資格検定も数多くあり、3月末に向けてさらに点数が加点されることが期待されるが、新型コロナ感染や全校生徒数の減少により合計ポイントの取得は厳しい状況にあった。今後も各科目の特色に応じて生徒の資格取得の支援をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒人数に合わせた目標設定が重要であるが、生徒間で資格取得に偏りがなく分析が必要である。 ・大学や企業と連携したキャリア教育が推進され成果をあげている。
		<ul style="list-style-type: none"> 企業や大学等から講師を招き、先進的知識・技術にふれ、ものづくりの技術・技能の向上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 外部講師を招く研修会等を6回以上行った。 3: 外部講師を招く研修会等を3回以上行った。 2: 外部講師を招く研修会等を1回以上行った。 1: 外部講師を招く研修会等を行わなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業と連携し、外部講師による講習会を8回実施した。生徒は大学やマイスターなどの専門家による高度な技術指導を受けることができた。2月にも講習会を2回実施する予定である。 	
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 学校の組織等 校内組織および業務の見直しと改善 日常的な業務 校務のICT化の推進 業務改善 職場環境づくり 働き方改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌の役割分担および各種行事等の見直しを行い、業務のスクラップと簡素化、業務分担の平準化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 業務のスクラップと簡素化、業務分担の平準化が進み、業務が大幅に改善された。 3: 業務のスクラップと簡素化、業務分担の平準化が進み、業務がある程度改善された。 2: 業務のスクラップと簡素化、業務分担の平準化に取り組んだが、業務改善には至らなかった。 1: 業務のスクラップと簡素化、業務分担の平準化の取組が行われなかった。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ICT化の推進に伴う新たな業務やコロナウイルス感染症対策への対応による負担が増えた。教員定数減による業務負担も加わった。業務改善に向け、教員アンケートを実施し、改革検討委員会にて課題の検討を行った。現在、ICT関連業務を中心に分掌再編、業務分担について改善を検討している。教員定数減、ICT化に対応した持続可能な体制づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の簡素化とスクラップは評価が難しい。指標を変えた方が良い。 ・ハードワークである。年休の取得日数が5日以下の人数が0人が最低ラインではないか。意識改革が必要である。 ・ICTの効果的な導入により業務改善を図っていることは評価できる。 ・時間外在校時間の多くは部活動であるが、部活動指導以外の業務での時間外を減らす方策を検討することも重要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 情報の一元化等職員間の情報共有、情報発信にネットワークパソコン利用によるICT化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築と活用を推進することができた。 3: 校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築はできたが活用が不十分だった。 2: 校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築、活用ともに不十分だった。 1: 校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築も活用もできなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 新たに校務支援システムが導入され、令和5年度入学生の実績処理を行っている。年次進行で新システムへ移行する予定である。令和6年度には、システムが完全移行し、データを一元化することができるため、業務が軽減されると予想される。 各種アンケートにICTを用いることで、業務負担軽減につながった。 一方、情報発信として、ホームページ、YouTubeチャンネルの活用が不十分であった。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 年休・代休等の休暇が取得しやすい職場環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 年休の平均取得日数が10日を超えた。 3: 年休の平均取得日数が7日を超えた。 2: 年休の平均取得日数は7日を下回った。 1: 年休の平均取得日数も5日を下回った。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 平均取得日数は、11.2日であった。学校全体としては、目標を達成したが、一方で8人が5日を下回った。担当する業務により休暇を取得しにくい時期もあるが、ワークライフバランスに気を付け、全教員が年休代休が取得しやすい環境づくりが必要である。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 教員の時間外在校等時間の平均を45時間以下とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 令和4年度の時間外在校等時間の平均が45時間以下 3: 令和4年度の時間外在校等時間が50時間以下 2: 令和4年度の時間外在校等時間が55時間以下 1: 令和4年度の時間外在校等時間が55時間超 	3	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度4~12月学校平均は46.6時間であった。45時間超人数が延114人(内80時間超人数が延40人、100時間以上の人数が延17人)であった。114人の主な理由は、部活動が80人、次いで校務分掌の業務のためが14人であった。業務を分担するなどの対応が必要である。 	
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の小中学生に対する教育活動の周知 学校と家庭、地域社会や地域の大学との連携強化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 親子科学教室、中学生の勉強会や出前授業において、工業の魅力を小中学生や近隣の方に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 4回以上の行事に参加した。 3: 3回の行事に参加した。 2: 2回の行事に参加した。 1: 1回の行事に参加した。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 須恵小学校、小野田小学校への出前授業を6回実施し、2月に小野田中学校でも実施する予定である。大学開放デーでは、山口東京理科大学と連携して科学教室を開催した。親子科学教室は新型コロナ感染の影響で実施できなかったが、参加予定者に教材と製作マニュアル配布することで本校のPRを行った。在校生の学校生活の様子を伝えるリーフレットを作成し中学校に配布した。小学生向けのものづくり教室の動画を作成し、YouTubeで配信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ教室は大変好評であった。今後も継続してほしい。 ・地域連携も重要であるが、学業第一なので、現状のままで良い。 ・専門高校の特色を生かした学校間連携が図られている。
		<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統産業を理解し、工場見学やインターンシップにより、地域と連携した学習に取り組む。また、地域の大学と連携し、高度な知識に触れる取り組みをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 地域と連携した行事に4回以上参加した。 3: 地域と連携した行事に3回参加した。 2: 地域と連携した行事に2回参加した。 1: 地域と連携した行事に1回参加した。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業と連携し、インターンシップ(2年)、工場見学(全学年)を実施した。また、山口東京理科大学の見学では、地域の大学の取り組みを知ることができた。工場見学では企業への訪問見学のほか、一部でリモートで説明を聞くことで、地域産業の理解を深めることができた。毎年恒例のクリーン作戦では、地元企業との地域合同清掃作業を実施した。令和3年度に導入されたデジタル化対応産業教育装置について、山口東京理科大学から講師を招き、先端技術を学ぶことができた。 	

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

<ul style="list-style-type: none"> 【教務】基礎学力テストの成績優秀者の割合は50%を超え、評価は「4」である。生徒の学習状況を把握し、評価基準の成績優秀者の割合を検討する必要がある。 【生徒】頭髪服装検査の合格率は高く維持できている。いじめの認知については、アンケートだけでなく日頃の学校生活の見取りからも行い、早期発見、早期解決を目指す。また、健康に対する意識と自己管理の向上を図り、治療率の向上を目指す。 【進路指導】昨年度を上回る求人数を確保し、卒業生全員の進路先を決定することができた。大学や企業と連携したキャリア教育が推進され成果をあげている。地域のニーズを把握し、指導に生かすことが今後も重要である。 【工業】学校全体での資格取得は目標を達成しているが、生徒の取得率に偏りがある。丁寧な指導を継続して行う。 【業務改善】業務のスクラップと簡素化についての指標を改善する必要がある。ワークライフバランスに気を付け、全教員が年休代休が取得しやすい環境づくりが必要である。 【地域連携】専門高校の特色を生かした地域連携、学校間連携が図られている。今後も学校の特色を生かした取組を継続する。

7 次年度への改善策

<ul style="list-style-type: none"> 【教務】各教科で基礎学力の定着を目指す。ICTの活用など、授業改善に取り組む。 【生徒】交通マナーや頭髪服装など、生徒の自覚を促し、自ら律することができる態度を育成する。 【進路指導】コロナ禍で縮小されていたPTA活動を再開する。大学や企業と連携したキャリア教育を継続する。 【工業】資格取得に向けて丁寧な生徒支援を行う。外部講師の招聘を積極的に行う。 【業務改善】ICT化を進め、業務改善を図る。持続可能な働き方に向け、教職員一人ひとりの意識改革に努める。 【地域連携】工業高校の特色を生かした地域連携、学校間連携に取り組む、生徒の自己肯定感を育む。
